

コロナ禍を乗り越えた吹奏楽部遠隔演奏と無観客演奏会ライブ配信

ICT につないだ部員・卒業生・観客の絆

長崎県立西陵高等学校吹奏楽部 教諭 藤田 毅, 教諭 遠藤 克子, 教諭 森田 好子, 指導員 永田 規矩也

キーワード：コロナ禍, 吹奏楽, 遠隔演奏, ライブ配信

実践の概要

本校吹奏楽部はコロナ禍による休校で日々の活動や定期演奏会ができず、さらにコンクールなどの発表の機会も失った。そこで、各部員の演奏動画を統合した遠隔演奏を作成するとともに、無観客演奏会のライブ配信を実施し、卒業生の遠隔演奏と在校生との共演も行った。

1. 目的・目標

(1) 遠隔演奏

本校吹奏楽部(84名)は座奏だけでなくマーチングにも取り組んでおり、令和元年度全国高等学校総合文化祭に県代表として出場するなどの実績を持つ。しかし、表1に示すようにコロナ禍による令和2年春の長期休校で活動ができず、例年3月下旬に行っている定期演奏会も実施できなくなった。そこでICT活用の1つとして、休校期間中に自宅などで部員が各自で撮影した演奏動画を合奏として一つの曲に作り上げた。この活動は、休校中の演奏技術やモチベーション、吹奏楽部としての一体感の維持などを目的および目標とし、主に2・3年生の部員が参加した。

表1 令和2年3月以降の長期休校等の時系列

3月	
4日	長期休校開始(1回目)・部活動中止
24日	終業式のための登校日
25日	部活動再開
4月	
2日	部活動中止(市内感染者発生のため)
4日	部活動再開
8日	授業再開・始業式
18日	部活動中止
22日	長期休校開始(2回目)
5月	
5日	在校生の遠隔演奏完成
11日	授業再開・部活動再開 ※生徒の半数ずつが交互登校
25日	全員登校再開(部活動完全再開)
6月	
7日	無観客特別演奏会ライブ配信

(2) 無観客特別演奏会ライブ配信

もう1つのICT活用として、休校で延期した定期演奏会を無観客の特別演奏会としてネット上(YouTube)でライブ配信することを計画した。この活動は1年間の練

習の成果を発表する機会を部員に与えるとともに、来場できないお客様に部員の演奏・演技の姿を届けることを目的および目標とした。また、2回目の休校期間後に吹奏楽コンクールなどの各種大会の中止が発表され、大きな目標を失った吹奏楽部員のモチベーションを維持することも目的とした。さらに、この演奏会の目玉の1つとして吹奏楽部卒業生の遠隔演奏動画(写真1)を会場に流し、在校生部員の生演奏と共演するという取り組みを行い、卒業後の時間と現在の生活場所という世代・空間を越えて演奏会に参加し、卒業生と在校生の絆を深める機会とした。



写真1 卒業生の遠隔演奏

2. 実践内容

2.1 在校生の遠隔演奏

2回目の休校期間中、楽器を持ち帰っていた部員が本校吹奏楽部の十八番の「You can't stop the beat」の短縮版を自宅などで演奏し、スマートフォンなどで撮影した動画を顧問に送り、その動画を動画編集ソフトで統合して遠隔演奏の合奏とした。実施に際しては本校吹奏楽部員が慣れ親しんでおり、2・3年生は暗譜ができているということで、この曲の短縮版(約1分半)を選曲した。この曲は冒頭と最後がユニゾンのため、各自の演奏動画を統合する際はその部分の動きや音の波形を目安に調整ができ、非常に都合がよかった。ただし、演奏動画の作成に取り組んだ当初は、テンポを指定して各自がメトロノームに合わせて演奏した動画を顧問に送信させたが、どうしても微妙なズレを解消できなかった。そこで、打楽器といくつかの楽器による基準用の演奏動画を作成して配信し、部員はその基準曲を聴きながら演奏する形で再撮影して顧問に送信させ、53名が参加した遠隔演奏動画が5月5日に完成し、YouTube上にアップした。※現在も他の動画とともに本校HP経由で公開中。右のQRコード参照。



2.2 無観客特別演奏会ライブ配信

5月11日以降、本県で2回目の休校が部分的に解除されてからは、定期演奏会の会場である諫早文化会館大ホール（長崎県諫早市）を使用して全部員が演奏・演技で参加する無観客の特別演奏会を YouTube 上でライブ配信することを計画し、6月7日に実行した。当日の撮影や配信作業は、これまで定期演奏会の記録 DVD を作成している業者（株式会社ミチプロ・宮崎市）に依頼して複数のカメラを切り替えることで、ステージ上で複雑な動きを伴うマーチングなどは臨場感ある映像を配信できた（ネット接続はモバイルルーター使用）。また、この演奏会の最後に行った「You can't stop the beat」の共演（写真2）のため事前に卒業生の遠隔演奏動画を作成する際は、在校生の遠隔演奏の経験から参加する卒業生（39名）に基準用動画を送信し、各自の演奏を撮影してもらうことでスムーズに演奏動画の統合ができた。さらに、演奏会で卒業生の遠隔演奏動画と在校生の生演奏を実際に共演するにあたっては、リハーサルで2つの演奏の音のバランスを何度も確認するとともに、諫早文化会館に依頼して演奏の一体感を決めるカギとなるドラムセット担当の部員の横にモニタ用の大型スピーカーを別途設置し、遠隔演奏の音を聴きやすくした。



写真2 卒業生の遠隔演奏と在校生の共演

（卒業生の遠隔演奏の映像をステージに投影して音はスピーカーで会場に流し、その曲に合わせて在校生も生演奏する様子をライブ配信している。）

3. 成果

遠隔演奏・無観客特別演奏会ライブ配信はいずれも成功した。実施後には吹奏楽部員にアンケートを行った。

その結果、「休校中の遠隔演奏に参加してよかった」という生徒が 97.8%（この項目だけ遠隔演奏参加者のみの数値）、「特別演奏会のライブ配信があつてよかった」という生徒が 100%、「特別演奏会で卒業生の遠隔演奏との共演があつてよかった」という生徒が 98.6%だった。ライブ配信については「多くの人に見て・聴いてもらえることで演奏に対する気持ちを高めることができた」という生徒が 97.2%いたことから、部員が遠隔演奏や特別演奏会のライブ配信に前向きに取り組んだことが推測される。一方で、「全く知らない人が自分たちの演奏を見て・聴くことで不安になった」という回答をした生徒も 13.6%いたことから、ライブ配信で目の前にいない不特定多数の人に自分たちの演奏を聴いてもらうという初めての取り組みに戸惑った生徒がいたこともわかった。自由記述では、休校中の遠隔演奏で「動画を見て私たちはひとりではないということ改めて認識した」などの感想が寄せられたことから、これらの取り組みが生徒の絆を十分に深めたものと思われる。また特別演奏会は、最終的に6月7日のライブ配信と翌日正午まで公開した動画（録画分）合計で 5,020 件のアクセスがあり、諫早文化会館大ホールの収容人数（1,283 人）をはるかに超える方々に演奏会を楽しんでいただくことができた。中には韓国から感想をもらった部員もおり、国境を越えるネット配信の可能性を生徒自ら実感していた。さらに卒業生の遠隔演奏との共演では東京から参加した卒業生から「生徒の皆さんや先生方の努力や頑張りを感じました。素敵な演奏会にリモートで一緒に出演できて本当に嬉しく思います」というような感想が寄せられた。

4. 今後に向けて

部員の努力や卒業生・関係各所の協力により、ICT を活用した今回の取り組みで、図1に示すように様々なつながりができた。この成果を受けて、例年12月に実施している老人福祉施設への訪問演奏が困難（入所者の感染防止のための外部からの立ち入り制限が継続）な場合、学校からのライブ配信での演奏を計画するなど、今回の取り組みは吹奏楽部の活動の新たな方向性を示すものになったと思われる。今後はこのノウハウをどう継承していくかが課題の1つになると考えている。

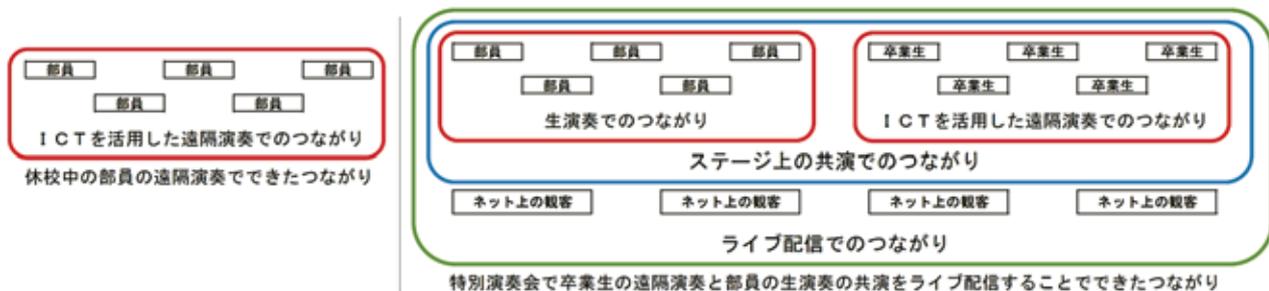


図1 今回の取り組みでできたつながり